

~~~~~  
水稻4. 7万tの収穫量と35万人の水道水を確保！  
~~~~~

～関係機関と連携を強化し水の安定供給を実施～
~~~~~

7月下旬以降の少雨により、8月2日に岩木川水系渇水対策支部（事務局：青森河川国道事務所）を設置しておりましたが、岩木川の流況が改善される見込みとなったことから、9月5日13時に体制を解除しました。

浅瀬石川ダムにおいては、関係機関と放流量について連携・調整を行い、かんがい期を無事に乗り切りました。

浅瀬石川ダムの効果として、次の3点が挙げられます。

○**関係機関との連携**

- ・7月16日の洪水直後から浅瀬石川土地改良区及び東北電力と連絡・調整し、渇水を意識して節水に努めてきたため、7,700ha（水稻約4.7万t）の農業用水・発電用水及び流域約35万人の水道水の安定した供給ができました。

○**水道水の安定供給**

津軽広域水道企業団から弘前市への水道水の増量を行い、弘前市へ安定供給することができました。

○**ダム放流量増量支援**

8月10日17時から8月20日24時までダム放流量を2割程度（約2m<sup>3</sup>/s）増量したことで岩木川の生態系保全を行いました。

※なお、浅瀬石川ダムの貯水位及び放流情報等については、当管理所のホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/aseishi/> で公開しております。

※発表記者會：弘前記者會、黒石記者クラブ、津軽新報社

国土交通省 東北地方整備局 浅瀬石川ダム管理所

黒石市大字板留字杉の沢2（TEL0172-54-8782）

管理所長 きむら しんえつ 木村 信悦（内線201）

管理係長 やまうち せいえつ 山内 盛悦（内線332）

## 【資料－1】

### <この夏のダム管理状況>

○浅瀬石川ダム流域では7月16日に大雨となったものの、7月下旬以降まとまった降雨がなく、8月のダム地点での雨量は過去10ヶ年の平均値187ミリに対し78ミリ（約42％）と極端に少ない状況でした。

○8月2日には岩木川水系渇水対策支部が設置され、渇水情報連絡会議等で浅瀬石川土地改良区や東北電力と農業用水の水利用について緊密な連絡・調整を行った結果、浅瀬石川水系では番水制も実施する事なくかんがい期（9月1日まで）を乗り切りました。

○弘前市において岩木川の流況が少なく川から取水ができない時に、浅瀬石川ダムを水源とする津軽広域水道企業団から弘前市へ水道水の増量（22,000m<sup>3</sup>/日→25,000m<sup>3</sup>/日）を行いました。増量した3,000m<sup>3</sup>/日は約6,000戸の消費量に相当します。

○関係機関に協力いただいた結果、少雨であったもののダム貯水位を高めにする事ができたため、8月10日17時から8月20日24時までダム放流量を2割程度（約2m<sup>3</sup>/s）増量しました。

これにより、五所川原付近の流量低下を軽減し、瀬切れなどの河川環境が悪化しないように河川の生態系（サクラマス、ウグイ等）保全に必要な流量を補給しました。

○増量放流した水量は25mプールに換算すると約4,000杯分。

### ※参考

#### ○水道水供給市町村

黒石市、弘前市、五所川原市、平川市（旧平賀町、旧尾上町）、青森市（旧浪岡町）、藤崎町（旧藤崎町、旧常盤村）、板柳町、鶴田町、田舎館村の5市4町村  
約35万人分

#### ○農業用水供給市町村

浅瀬石川土地改良区（黒石市、五所川原市、平川市（旧平賀町、旧尾上町）、青森市（旧浪岡町）、藤崎町（旧藤崎町、旧常盤村）、板柳町、鶴田町、田舎館村の約7,700ヘクタール

○水稻約4.7万tは水稻作況指数「やや良」から算出した予想収穫量です。

【資料-2】

# 浅瀬石川ダム水位管理の状況

